

## 第7回高安自然再生協議会のテーマと概要

日時:2016年3月10日(水) PM5:30~7:30

場所:大阪経済法科大学八尾キャンパス

テーマ:高安地域の自然再生と観光について

高安の里地里山は、自然・文化・史跡に関して、観光（あるいはエコ・ツーリズム）地として魅力ある地域である。

自然としては、絶滅危惧種のニッポンバラタナゴの生息地であり、大阪府が企画する花屏風計画の中心地でもある。自然再生することによって大阪経済法科大学ふれあい池周辺にゲンジボタルが自然再生することができ、生物多様性の保全につながる森林整備やドビ流し（池干し）などのエコ・ツーリズムも実施可能である。

高安の伝統文化として、高安地域は高安能の発祥地であり、かつて河内木綿の原料である和綿の栽培が盛んであったところである。現在、和綿の有機栽培も実施されるようになり、今後、休耕田を利用した和綿の無農薬有機栽培は高安の里地を自然再生する方法として多くの可能性を含み、エコ・ツーリズムとして和綿の有機栽培や河内木綿作りに参加するイベントなども企画できる。

さらに、国指定の千塚や心合寺山古墳など多くの史跡があり、史跡めぐりの観光地として多くの可能性を持っている。史跡や文化を守ることは、その地域を自然再生することにつながると私たちは考えている。なぜならば、生物多様性の意義や価値を考えると、その地域の生物多様性がその地域の文化や歴史の根源になっていると考えるからである。

以上のことから、高安地域を自然再生することは、高安の自然・文化・歴史をより魅力的なものにし、観光地として多くの人を引き付ける可能性があると考えている。このことが高安の自然再生と地域づくりに大きく影響すると考えて、今回のテーマとして取り上げた。

高安地域で観光を考えると、是非とも必要な条件として、地場の商品（花卉や野菜などの農産物）の販売所や飲食が可能な売店が必要であると考えている。以前から提案しているが調整地域ではあるが、農業振興区域で地産物の販売や飲食店を可能にする条件を指導してほしい。